

## 編集室から

先月も全国各地を駆け回っていました。この季節、各地で紅葉が進行していて、訪れる時期・土地柄によって、移ろい行く光景は、季節の変わり目と時の流れを直接感ずることができる有難い瞬間の連続でした。

先月末から今月初にかけてネットの無線環境を変えたのですが、うっかり旧環境を持ち出してしまい、出先でレギュラー陣の方々のニュース原稿を受取れず発行期限に支障をきたすという失態を演じてしまいました。

また、出張が続くと、生活時間帯・移動量など色々と普段とは異なる環境に置かれるため、北陸に戻ってきて疲れがどっと出るがあります。訪れた先での出逢いと、交流による交歓・共鳴ほど楽しいものはありません。そのため、つつい呑みすぎてしまうことが原因かも知れません。

季節変動・移動・出逢いの連続である非日常環境が続いても、容易にへこたれない基礎体力を獲得するため、何か運動をしなければならないのかもしれませんが、幼少の頃から不得意で、避けてきた領域ですが、出逢いの楽しみのためにも、そろそろチャレンジという言葉が（大袈裟ですが）チラついてきます。

先月号の「つぶやき」で触れた母の手術は無事成功し、リハビリも順調なのですが、縫合傷の快復が思わしくなく、退院が延びていて、老夫婦の挑戦は続いています。

下の写真は、金沢 名古屋 静岡 東京 金沢と出張した際の金沢発金沢行きの切符です。

(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆  
していただいている川島さん  
が「能登の夜市」の姉妹店を  
開店されました。

上京された際、ご利用になっ  
てみてください。

もちろん、川島さんご自身も  
お店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00～24:00

金曜17:00～28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術  
者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、  
計画マンがどのようなことを考えているのか  
などに触れて、少しでも業界を知っていただ  
ければと考えて編集しています。

2015/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2015/11  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 霜 月



能登・薬師の里にて  
by hama

## 濱のつばやき 『 確固たるもの 』

ある勉強会で、印象に残る言葉を耳にした。  
曰く

変えられないものを受け入れる広い心と  
変えられるものを変える勇氣と  
二つの違いを見分けられる智慧を  
ありがとございます

これは、北米のネイティヴィンディアンホピ族に遺  
されている祈りの言葉だという。

例えば、事故に遭ったとしよう。普通なら、なんて運  
が悪いだらう・もう駄目だ・相手のせいだなどという  
反応を起こし、そのネガティブな感情の坩堝の中から容  
易に抜け出せないまま、悶々とした時間を過ごすことだ  
らう。その間、本人は決して幸福ではないし、創造的な  
活動も停止したままになっているだらう。

この例で「変えられないもの・こと」と「変えられる  
もの・こと」は何であろうか。

変えられないこととは、「実」つまり事実・現実であ  
る。この例では、事故が起きたこと。

変えられることとは、「虚」つまり事実に対する思考・  
解釈・評価である。この例では、ネイティヴな反応が、  
相当する。

もし、事故に遭っても、起きてしまった事は仕方が無  
い。ネガティブな評価・反応を起こさず、今この場でし  
なければならぬことに対して淡々と対応していけば、  
事後の処理は意外に軽く済むことがある。

ところが、人間の思考回路は、そうなっていない。  
この世は、「実・現実・事実」しか起きていない。「虚・  
思考・解釈・評価」は、人間の思考の中にしか存在せず、  
二次元的には存在しない。だから虚という。ところが、  
我々人間は、この実と虚との区別が困難であるほど、思  
考というものにドップリ浸かって生きている。

その思考パターンが確固たるものであればあるほど、  
そのパターンに陥っていることに気づきにくい。何故な  
ら、確固たるもの＝常識＝思い込みであるからだ。

地球が不動で、太陽が地球の周りを回っているという  
天動説を、今日の世で「確固たるもの」として説明すれ  
ば、ほぼ間違いなく嘲笑に遭う。ところが、中世以前の  
世界では、天動説が確固たるものであり、地動説など全  
く想像もできないほどバカバカしい理論とされていた。  
ところが今日、天動説が常識で、地動説は非常識とさ  
れている。ただし、科学的には地動説も正確ではない。  
太陽でさえ、銀河の中で移動しており、その銀河も宇宙  
の中で動いている。つまり、不動のものなどこの世には  
一切無いという説が、どつやら最も支持されている学説  
のようである。

いささか大袈裟な例ではあるが、このことから解釈・  
評価というものが、時代と共に容易に逆転するほど、い  
かに虚ろであるかが理解されよう。

自分にとって、確固たるものであればあるほど、それ  
が本当は虚ろである事など、ますます気付きにくくな  
る。

かく言う自分も先日、ある出来事から自らの中の絶対  
的確固性を持つ思考・解釈・評価基準があることに気付  
かされた。

その絶対的評価基準とは、「無責任である」という評  
価を受けたくない」というものだった。企業を経営し、公  
的事業を中心とする事業コンサルタントという職業柄、  
無責任な姿勢で臨んで善いはずが無い。というのが世の  
常識だらう。つまり、「無責任ではならない」とは、世間  
的にも「常識」なのであるというのが「確固たるもの」で  
あった。

自分の場合、さらに同時に「誰からも非難されたくな  
い」ため、無意識に「完べき主義」を指向するパターンも  
持っている。こうなると無責任などと仮初めにも言われ  
ないために、完べき主義を標榜し全うしようとするため、  
ますます周囲の評価・解釈を気にして無限に頑張るとい  
う「ガンバル教」入信者状態に陥りやすくなる。

かつて、この双方の「常識」をブンブン振り回して、猛  
烈に仕事をしていた。それ故にクライアントからは満足・  
高い評価を得ているものと信じ込んでいた。ところが、こ  
の猛烈パターンは、自分の思い込みから発しているから、  
コンサルティング提案する内容も必然的に、自分の思い  
込みの域を脱しない。ありていに言えば、自己満足の世界  
なのである。顧客が求めているものなど全く見えていな  
い。

その危うさに気づき、またガンバリズムでは自分も疲  
弊する一方で、ある時、完べき主義の看板を下ろすこと  
にした。

一方で「無責任とは言われたくない」の方は所有してい  
る本人に気付かれることなく、心中奥深く大切に保管さ  
れ続けていたのである。

そんなある日、ある事で無意識に無責任状態を回避し  
ようと苦しんでいた。心を学んでいる知人に思い切つて  
その事を相談した。そのやり取りの中で、ふとこの無責任  
回避願望の存在に気付いたのだった。

その数日前、ある顧客から「ご自身の考えや理想を振り  
回す方でなくて助かっています」とお褒めを戴いていた  
ことを思い出していた。

計画論的に理想的であっても、現実世界では決して通  
らないことというものがある。理想像を持つことは素晴  
らしい。が、それに固執すると現実との落差に苦しむ。顧  
客が置かれている状況・環境や物事の進行具合に応じ、  
常に最適な提案・道標を提示することの方が、現実的には  
有効性が高い。そんな柔軟性を以って臨んでいる姿勢を  
評価して戴いたのだと有難かった。

同じ事を為しているも無責任という評価を下される場  
面もあるかもしれない。つまり、同じ姿勢・行為がどのよ  
うに評価されるかは、先方の事情・都合に依存していて、  
こちら側では変えることができない。それを受け入れる  
こととは、「こちらの誠意を尽くして、その評価は全て相  
手に委ね切ってしまう」ことである。これはある意味、怖  
ろしい。

ホピ族は、その事を知っていたに違いない。自分が他人  
にどう評価されるかは、自分で制御できず、相手に完全に  
依拠し、委ねるしかない。怖ろしくても仕方が無い。広い  
心を持つこととは、そういうことなのだ。

変えられないものを受け入れる広い心を持つならば、  
変えられることを変える勇氣は自然に備わることだろ  
う。そうして、両者を見分ける智慧もそこには伴ってい  
ることだらう。

誰のために、何をやっているのか。深い問を決して忘れ  
ずに居たい。



大分県国東市には大分キヤノン(株)が立地しており、キヤノングループのカメラ生産拠点となっている。そして同市のふるさと納税に対する御礼の品のフラッグシップは、100万円以上の寄附に対する35万円相当の一眼レフカメラ&レンズキット<sup>1</sup>である。

趣味のカメラが縁で結婚したAさんとBさん<sup>2</sup>は、東京都在住だがそれぞれ福井県あわら市と宮城県多賀城市の出身。Aさんは外資系証券会社のチーフアナリストをしており年収は3千万円を下らない。以前から故郷に貢献したいという思いがあり、ふるさと納税についてBさんと一緒に調べてみた。

その結果、一定金額以内であればふるさと納税(寄附)額とほぼ同額の還付・控除が受けられるため、寄附をしない場合と比べた実質負担額は僅か2千円であること。自分達のケース(年収、家族構成等)ではこの一定金額が百万円余りであること。そして寄附先は“ふるさと”に限らず任意に選ぶことが可能で、御礼の品をくれる自治体もあり、その差が非常に大きいこと等を理解した。

そして、ふるさと納税ポータルサイト「チョイス」<sup>3</sup>にて、Bさんの実家の多賀城市では、8万円相当のソニーの一眼レフカメラ<sup>4</sup>が20万円以上寄附した際の御礼の品になっていることを知る。小躍りしながら他も探してみると...なんとそのはるか上をいく国東市のスペック!

ということで、AさんとBさんはあわら市や多賀城市ではなく、国東市への寄附を選んだ。公共サービスの恩恵を受けている東京都に対し、納付額が減ることは全く気にならなかったが、故郷への後ろめたさを少し感じた。越前がにと自分たちの趣味に合う高級カメラ、そして8万円対35万円相当の品ではさすがに勝負にならなかっただけのことと自分を納得させていた。

このふるさと納税の制度設計は、自治体そして納税者の双方を、極端に経済合理性へと走らせる方向に働いている。自治体側は「ふるさと納税(寄附)額」を「御礼の品代+事務作業費」が上回れば儲けとなり、納税者側からすれば「御礼の品相当額」のみが判断基準となる。高額納税者にしか与えられない特典もえげつない。そこには“ふるさと”の欠片もなく、郷愁の念を真面目に汲み取ろうとする自治体<sup>5</sup>の姿が滑稽にさえ見えてくる。ふるさとへの強い思いをも吹っ飛ばすような、虚しいお土産競争はもうやめてはいかがだろうか。

注1: EOS 5D Mark + EF24-70mm F4L IS USM。価格.comでは343,584円が最安価格(15/10/22現在)

注2:Aさん、Bさんは架空の人物 注3:<http://www.furusato-tax.jp/>

注4:ILCE-5100Y。価格.comでは76,047円が最安価格(15/10/22現在)

注5:故郷とのつながりを感じさせる品や、故郷のまちづくりへの関与等で工夫をこらしている自治体も少なくない。

先日の素晴らしい秋晴れの休日に、上の娘が通う保育園の同級生父母会の交流イベントがありました。イベントと言いましても、近所の公園のフリースペースでレジャーシートを敷いて、持ち寄ったおつまみとお酒を囲むというアットホームなものです。

川島家は、これまで妻が参加していたのですが、今回はまだ4カ月の長男がいるため、今回初めて参加しました。結論から言いますと「子供を介した父親同士のつながりはおもしろい!」これにつきます。

その理由は3つです。

その1 無条件で愛される母親とは違う「父親」というポジション

父親という立場ならば誰しもが通る関所が「父親は生まれてから父親になる」という事です。当然おっぱいをあげたり、長時間一緒に子供といれない父親と言うのは、相対的に母親よりも子供にとってランクが下に位置付けられます。この、悔しさを共有できる稀有な存在が父親コミュニティです。

その2 お父さんコミュニティは妻の合意を得やすい

子供もその母親も顔なじみである、他のお父さんと飲みに行くという事に関して妻の合意が非常に得やすいのです。翌日お母さん同士が「昨日はうちの旦那がすみません」、「いえいえこちらこそ遅くまで付き合わせちゃったみたいで」なんて、自分の感知できるテリトリーで旦那が遊ぶことに関しては女性は寛容なようです。

その3 未来志向であること

ここが一番大事なのです。同じ保育園で子育てという共通の問題意識を持った集まりには、年齢や所得の上下というのは全く関係してこないというのは自分自身も意外なほど感じた事です。男性が酒の場になるとよく出てくる会話のトップ3は

出身の学校・会社の話

「どこの大学?」、「どこの会社?」というくだらないものです。

今やっている仕事の話

「俺あの仕事やってたんだよね」、「今この仕事しててこうでさー」というくだらなさ。

好きな女性、今付き合っている女性の話

「あの受付の女の子いいよな」、「昔付き合ってた女がこうでさー」という男性の最高の酒の肴話なのですが、お父さんコミュニティのメインの会話は「子供達がこれから生きていく社会ってどうなるのだろうか?」、「僕たちでこういう事してみない?」というように、会話の主体が自分ではなく子供なんですよね。男性という生物がこれまで生きてきたヒエラルキー社会とは無縁の会話なのです。あー、この会話が全国の至る所で会話されているとしたら、これを皆が共有でき具現化できるような社会にしたいと思うくらい熱いものです。

昨日の日経MJで「新DINKSのライフスタイル」というものが紹介されていました。その詳細は日経MJをご覧くださいになっていただけたらと思うのですが、端的に言えば今のDINKSスタイルは“結婚=ルームシェア”の感覚だそうです。なので、お互いのプライベートも知らない夫婦も多いとのこと。それは人それぞれの行き方の価値観なので否定はしませんが、私は「自分の今の生活の充足」より「子供の将来がよりいい社会であること」に腐心するこのお父さんコミュニティが愛おしくもあり、誇りに思える今日この頃です。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』九州視察の旅(6/27~30)その3  
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

翌日は豊後高田市に向かうことにしていた。

日本一移り住みたい町の看板を出す、この町の戦略を学ぶことが目的だ。

備後高田市は、鉄砲打っても人には当たらないと言われた消滅寸前の商店街を「昭和のまち」として、ここ20年間で蘇生させたことはつとに有名である。最近では移住定住でも知れ渡ってきている。

途中に旧大山町がある。そう「梅栗植えてハワイに行こう」という明確なコピーで農家の所得を爆発的に増やした「あの町」である。反対の名前の我小山町長に、この大山町を是非案内したかった。

今でこそ大流行の道の駅、その先駆者的存在の「この花ガルテン」で大山農協総務部長だった友人の森さんが、プラムの収穫で超忙しい時をぬって会いに来てくれた。ご自慢のプラムを土産に、直売場の中の説明をしつつ案内してくれた。農産物も加工品も質が高く、あれよあれよという間に8000円もの買い物をすることになった。

ここまで来たら、大山町長兼農協組合長だった故矢幡治美氏の意思をついで同じく町長も組合長も経験されたご長男の矢幡欣治さんに会わないと気が済まない。

氏の経営するキノコセンターに向かい、限られた時間内に大学出てからアメリカにいたところを町長である父に連れ戻され役場勤務を命じられたところの話から矢継ぎ早にこれまでのことをさらっと話してくれた。質問しながら話を掘り下げたかったが、許される時間はあまりに少なかった。



改めて出掛けてくる約束のもとに、豊後高田市に向かった。

地域創造課の馬場主幹が視察の相手をしてくださった。まずはこどもPFIで市営住宅を建てている。市の開発地の内、住宅分譲になりにくい場所に子育て世帯向けの木造二階建てのメゾネットタイプを建てている。商工会青年部のメンバーで構成されたチームが公募の中で選ばれ、事業に取り組んでいる。住宅地や住宅造れば人が来る訳でなし、細かなケアがウリだ。

今年の初夏の旅、智頭町、海士町、由布院、みやき町、大山町、豊後高田市を終え、思う曲がある。テレビ東京のWBSのエンディングテーマ「Don't give it up」だ。

世の中には、誰もが不可能だと思ったことを叶える人がいる。夢の先駆者だ。その夢が可能と知ると、それがいつしか常識になり、さらに夢が広がって、誰かがその夢のまた一步先を夢見て、そして叶えていく。

そうやって夢のバトンを手渡ししながら、我々は人間の歴史をつくってきた。

今では当たり前前に飛んでいる飛行機だって、最初は飛べなかったように、不可能だと感じるような夢を叶えることはしんどくて、失敗もあって大変だけど、あきらめずに、恐れず夢を抱きたい。

(おしまい)



備後高田市のホームページより